【2017 年 5 月 18 日】
公益社団法人日本麻酔科学会
安全委員会

筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン作成への協力について

日本神経学会より「筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン」を作成するにあたり、本学会に協力依頼がありました。

本症は筋ジストロフィーの中では最も有病率が高い疾患で、重症度の幅も大きく、全身の多臓器障害を有するため、全ての診療科の医師に診療機会があり、専門科（神経内科・小児神経科）を中心とした集学的医療が重要な疾患です。一方、本症の患者は症状の自覚に乏しく、一般医師も多臓器障害に対する知識が不十分なことが多いため、標準的医療の普及に診療ガイドラインの重要性が高いものと考えられます。

本学会では、ガイドライン作成にご協力いただける会員の方を公募することといたしました。

つきましては、6 月 15 日（木）迄に、下記のフォームよりご連絡ください。
ご協力の程、何卒宜しくお願いいたします。

連絡フォーム：
連 絡 先：anzen@anesth.or.jp
件　　名：筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン作成への協力について
回答内容：氏名と下記添付資料
・履歴書：任意のもの　　・資料：筋強直性ジストロフィーに関する研究歴

以上

SOCIETAS NEUROLOGICA JAPONICA
Founded in 1960

公益社団法人日本麻酔科学会　様

筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン作成への協力者ご推薦のお願いについて

新緑の候、貴会におかれましてはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

このたび、日本神経学会の監修により「筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン」を作成することについて、4 月 28 日の日本神経学会ガイドライン統括委員会で正式承認をいただきました。ガイドライン作成委員会委員長を独立行政法人国立病院機構刀根山病院臨床研究部長松村　剛が努めさせていただきます。

本症は筋ジストロフィーの中では最も有病率が高い疾患で、重症度の幅も大きく、全身の多臓器障害を有するため、全ての診療科の医師に診療機会があり、専門科(神経内科・小児神経科)を中心とした集学的医療が重要な疾患です。一方、本症の患者は症状の自覚に乏しく、一般医師も多臓器障害に対する知識が不十分なことが多いため、標準的医療の普及に診療ガイドラインの重要性が高いと考えております。

疾患自体の診療は神経内科中心になることから、作成主体(費用負担)は日本神経学会で行う予定ですが、生命予後等に重要な影響を及ぼす臓器障害につきましては、関連学会のご協力を得て作成したいと考えております。

本症では、心伝導障害、気道クリアランス能力低下や低酸素血症、嚥下機能障害などが存在することから周術期合併症が生じやすく、特に未診断例や適切な情報提供がなされていない場合などにトラブルになることもあります。こうしたことから、本ガイドライン作成においては麻酔科専門医にご参加いただき、貴会のご高閲をいただいて発刊したいと考えています。

昨年にもご連絡させていただき、私共でもご協力いただける麻酔科専門医を当たったのですが、お引き受けいただける方を見いだせませんでした。誠に勝手なお願いで恐縮ですが、貴会より適任者をご推薦いただきガイドライン作成にご参加いただきたくお願いする次第です。

このお願いについては、日本神経学会ガイドライン統括委員会委員長亀井　聡先生のご許可をいただいております。誠に勝手なお願いで恐縮ですが、ご高配のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2017 年 5 月 12 日

日本神経学会
筋強直性ジストロフィー診療ガイドライン作成委員会委員長
松村　剛
（独立行政法人国立病院機構刀根山病院　臨床研究部長）

本件に関する連絡先
日本神経学会事務局
担当　池田　　jsn-jimucho@gol.com